

科 音楽史 (全専攻) 2枚のうちの / 枚目	受験生記入欄		(ア)	(イ)
	科 専攻	声種: 楽器:	受験番号	番

以下の4系列のうち、各自入学願書提出の際に選んだ系列の、各3問題中から2問題を選んで答えなさい。なお音楽文化学専攻の受験生は、4系列12問題中から自由に2問題を選んで答えること。

解答には必ず1問題ごとに解答用紙1枚ずつを用い、各解答用紙の冒頭に選択した問題の記号(A1、B2、C3など)を明記すること。

◎声楽を中心とする音楽史

A1 音楽と言葉との関係について、以下の三つの場合をそれぞれ具体的に説明しなさい。

- (1) V. ベッリーニ 《ノルマ》
- (2) G.F. ヘンデル 《ジュリオ・チェーザレ》
- (3) A. ベルク 《ヴォツェック》

A2 有節歌曲は同じ音楽が各詩節で繰り返されるものであるが、作曲家はその際、どのような問題に直面し、それをどのように解決してきたであろうか。

A3 以下から三項目を選んで説明しなさい。

- (1) オペラ・バレ
- (2) G. カリッシミ 《イェフテ》
- (3) W. グルック 《アルチェステ》
- (4) ジョスカン・デプレ ミサ《ラ・ツ・ファ・レ・ミ》
- (5) I. ストラヴィンスキー 《エディプス王》
- (6) C. ドビュッシー 《ペレアスとメリザンド》
- (7) ミンネゼンガー
- (8) F. メンデルスゾーン 《エリア》

◎鍵盤を中心とする音楽史

B1 楽譜エディションの選択に際して、どのような問題が生じるだろうか。そしてそれは演奏にどのように影響するだろうか。自らの経験に照らして論じなさい。

B2 モーツァルトのウィーン時代のピアノ協奏曲について述べなさい。

B3 以下から三項目を選んで説明しなさい。

- (1) ウィーン式アクション
- (2) オルガン・ミサ
- (3) グラウンド・ベース
- (4) R. シューマン 《ダヴィッド同盟舞曲集》
- (5) 多感様式
- (6) バド・パウエル
- (7) 《ブックスハイム・オルガン曲集》
- (8) プリペアド・ピアノ

科 目	受 験 生 記 入 欄			(ア)	(イ)
音楽史 (全専攻) 2枚のうちの2枚目	科 専攻	声種： 楽器：	受 験 番 号 番		

◎管弦打楽器を中心とする音楽史

C1 オーケストラで用いられる楽器のうち一つを取り上げ、18世紀から20世紀に至る構造や奏法の変遷について説明しなさい（場合によっては国や地域による違いについても補足すること）。

C2 ハイドンの「疾風怒濤期」の器楽作品の特徴について論じなさい。

C3 以下から三項目を選んで説明しなさい。

- |                        |                           |
|------------------------|---------------------------|
| (1) E. ヴァレーズ 《イオニザシオン》 | (2) 器楽セレナーデ               |
| (3) コンセール・スピリチュエル      | (4) コンチェルティーノ             |
| (5) C. ドビュッシー 《ノクチュルヌ》 | (6) L.v. ベートーヴェン 《交響曲第3番》 |
| (7) G. マーラー 《交響曲第3番》   | (8) W.A. モーツァルトの弦楽五重奏曲    |

◎日本・東洋を中心とする音楽史

D1 日本・東洋諸国において理想とされる声のあり方を、時代や音楽ジャンルを特定して説明しなさい。

D2 日本・東洋諸国において、特定の楽器で古典曲と現代曲を演奏する場合に、楽器（付属品を含む）の選択や用いられる演奏技法にどのような違いがあるか。それぞれの音楽様式の特徴と絡めて説明しなさい。

D3 次の作品について説明しなさい。十二問中五問を選ぶこと。

- |            |           |            |             |            |
|------------|-----------|------------|-------------|------------|
| (1) 《秋風の曲》 | (2) 《井筒》  | (3) 《娘道成寺》 | (4) 《懐月調》   | (5) 《執心鐘入》 |
| (6) 《春香歌》  | (7) 《関の扉》 | (8) 《巢鶴鈴慕》 | (9) 《長恨歌の曲》 | (10) 《白毛女》 |
| (11) 《流星》  | (12) 《陵王》 |            |             |            |